

社会福祉法人松戸市社会福祉協議会
令和 7 年度第 1 回松戸市居場所づくり全体会議要旨

1 日 時 令和 7 年 4 月 11 日(金) 午後 1 時 30 分～2 時 45 分

2 会 場 松戸市社会福祉協議会 第 1・2 ボランティア室

3 議 事

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 松戸市社会福祉協議会会長挨拶
4. 委員自己紹介
5. 議 題

(1)会長の選出および副会長の指名について

(2)令和 6 年度「まつど DE つながるステーション」の活動費の精算について

(小金地区、東部地区、六実六高台地区、馬橋地区、明第 2 西地区、明第一地区、小金原地区、馬橋西地区、矢切地区、常盤平地区、新松戸地区、五香松飛台地区、常盤平団地地区)

(3)令和 7 年度「まつど DE つながるステーション」の活動について

6. その他

4 出 席 者

(1) 出席委員(10 名)

会長	小川 早苗	松戸市社会福祉協議会会長
副会長	恩田 忠治	松戸市町会・自治会連合会 会長
委員	町山 雅則	松戸市町会・自治会連合会 副会長
委員	平川 茂光	松戸市民生児童委員協議会 会長
委員	梶原 栄治	松戸市民生児童委員協議会 副会長
委員	山崎 恵	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 理事
委員	松村 大地	特定非営利活動法人まつどNPO協議会 理事
委員	伊東 朱美	松戸市総合政策部 部長
委員	上野 真一	松戸市市民部 部長
委員	村上 陽子	松戸市生涯学習部 部長

(2) 出席機関(7 名)

松戸市総合政策部地域共生課

(3) 事務局(5 名)

松戸市社会福祉協議会

5 議事内容

■会長の選出および副会長の指名について

松戸市居場所づくり全体会議会長及び副会長について、松戸市居場所づくり全体会議設置要綱に基づき選出。会長は互選により小川委員が推薦され、異議なしとして承認された。副会長は小川会長の指名により恩田委員が推薦され、異議なしとして承認された。

■令和6年度「まつどDEつながるステーション」の活動費の精算について

(小金地区、東部地区、六実六高台地区、馬橋地区、明第2西地区、明第一地区、小金原地区、馬橋西地区、矢切地区、常盤平地区、新松戸地区、五香松飛台地区、常盤平団地地区)

13 地区の申請内容について松戸市地域共生課より一括して説明。異議なしとして承認された。

(1) 小金地区

実績報告額 400,562 円 交付額 480,000 円 返納額 79,438 円

小金地区ステーション開催概要

ステーション名	小金わくわく農園
目的	農福連携をテーマに、農作業を通じて子どもから高齢者等の多世代交流の機会創出を目的とする。
開催日	令和6年4月21日(日)、5月6日(月)、6月9日(日)、7月7日(日)、8月4日(日)、9月8日(日)、10月14日(月)、11月23日(土)、12月8日(日)、令和7年1月19日(日)、3月8日(土)
開催場所	本土寺参道裏農園、赤門家、中金杉会館、小金北市民センター、殿平賀小学校
開催内容	・農作業を通じての多世代交流(農種まきや草抜き等の農作物の手入れ) ・収穫イベント ・農作物について農業指導者より学びの提供 ・タウンミーティング ・小金地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	・小金地区在住者及び在勤、在学者
参加者人数	参加延人数 838 人 平均参加者数 76.1 人
運営者人数	毎回概ね 10 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他(口コミ、各実行委員の活動での告知)
実績報告額	400,562 円

(2) 東部地区

実績報告額 396,352 円 交付額 480,000 円 返納額 83,648 円

東部地区ステーション開催概要

ステーション名	東部地区「まつど DE つながるステーション」
目的	ステーション活動を通じて、多世代間交流の機会を創出する。
開催日	令和 6 年 5 月 11 日(土)、7 月 6 日(土)、9 月 21 日(土)、11 月 30 日(土)、12 月 21 日(土)、令和 7 年 1 月 11 日(土)、3 月 8 日(土)
開催場所	紙敷あんど、熊野神社、松戸市大橋 1102、和名ヶ谷集会所、高塚新田集会所、秋山集会所、東松戸ゆいの花公園
開催内容	・飲食物の提供や工作体験等を通じての多世代間交流 ・東部地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	・子どもとその保護者 ・高齢者、高校生等のわかもの 等
参加者人数	参加延人数 1,000 人 平均参加者数 143 人
運営者人数	毎回概ね 20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS 投稿／その他(口コミ、各実行委員の活動での告知)
実績報告額	396,352 円

(3)六実六高台地区

実績報告額 397,918 円 交付額 480,000 円 返納額 82,082 円

六実六高台地区ステーション開催概要

ステーション名	つどうde6∞6(ツドウデロクロク)
目的	多世代間および運営者間の交流促進およびつながりづくり等を促進する。
開催日	信隆寺: 令和 6 年 5 月 13 日(月)、6 月 10 日(月)、7 月 8 日(月)、8 月 12 日(月)、9 月 9 日(月)、11 月 11 日(月)、12 月 9 日(月)、令和 7 年 1 月 13 日(月)、2 月 10 日(月)、3 月 10 日(月) みんなの居場所あびす: 令和 6 年 4 月 30 日(火)、5 月 28 日(火)、6 月 25 日(火)、7 月 30 日(火)、8 月 27 日(火)、9 月 24 日(火)、10 月 29 日(火)、11 月 26 日(火)、12 月 31 日(火)、令和 7 年 1 月 28 日(火)、2 月 25 日(火)、3 月 25 日(火) 六実市民センター: 令和 6 年 7 月 27 日(土)、令和 7 年 2 月 1 日(土) 高竈神社: 令和 6 年 9 月 29 日(日)
開催場所	【固定型】信隆寺、みんなの居場所あびす 【巡回型】六実市民センター、高竈神社
開催内容	・時間と場所を固定した固定型開催で、自由に過ごせる居場所の

	提供 ・巡回型開催で固定型および地区内既存活動等を周知 ・六実六高台地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	六実六高台地区の方々および居場所運営などに関わる方々 等
参加者人数	・参加延人数 531 人 固定型 83 人 巡回型 448 人 ・平均参加者数 固定型 4 人 巡回型 149 人
運営者人数	固定型：毎回概ね 1 人程度 巡回型：毎回概ね 50 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各実行委員の活動での告知）
実績報告額	397,918 円

(4)馬橋地区

実績報告額 479,205 円 交付額 480,000 円 返納額 0 円

馬橋地区ステーション開催概要

ステーション名	まばし DE エンジョイ！
目的	地域で子どもたちが交流したり、子ども同士で外遊びをする機会が減少している現代社会において、地域の子どもから高齢者までの多世代交流のきっかけづくりを進めていく。
開催日	令和 6 年 5 月 12 日（日）、6 月 22 日（土）、8 月 24 日（土）、10 月 12 日（土）、11 月 3 日（日）、令和 7 年 2 月 9 日（日）
開催場所	馬橋東市民センター、市立八ヶ崎小学校、幸谷ふれあいホール、県立松戸高等学校、県立松戸高等学校周辺農地
開催内容	・様々な遊びを通じた多世代交流 ・農作物の収穫を通じての多世代交流 ・馬橋地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	・子どもとその保護者 ・地域の高齢者、中高生 等
参加者人数	参加延人数 1,140 人 平均参加者数 190 人
運営者人数	毎回概ね 20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各実行委員の活動での告知）
実績報告額	479,205 円

(5)明第 2 西地区

実績報告額 480,325 円 交付額 480,000 円 返納額 0 円

明第 2 西地区ステーション開催概要

ステーション名	にじいろステーション
目的	ステーション活動を通じて、多世代間交流の機会を創出する。
開催日	令和 6 年 4 月 21 日(日)、5 月 19 日(日)、6 月 16 日(日)、7 月 21 日(日)、8 月 25 日(日)、9 月 15 日(日)、10 月 20 日(日)、11 月 17 日(日)、12 月 15 日(日)、令和 7 年 1 月 19 日(日)、2 月 23 日(日)、3 月 16 日(日)
開催場所	古ヶ崎市民センター
開催内容	・遊びや創作活動等の体験を通じての多世代間交流 ・サロン ・明第 2 西地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	・明第2西地区在住者及び在勤、在学者 等
参加者人数	参加延人数 1,168 人 平均参加者数 97.3 人
運営者人数	毎回概ね 20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS 投稿／その他(口コミ、各実行委員の活動での告知)
実績報告額	480,325 円

(6)明第一地区

実績報告額 336,649 円 交付額 400,000 円 返納額 63,351 円

明第一地区ステーション開催概要

ステーション名	はばたけ明第一 ～世代をこえて～
目的	地域の子どもから高齢者までの多世代交流のきっかけづくりを進めていく。
開催日	令和 6 年 5 月 26 日(日)、6 月 30 日(日)、8 月 3 日(土)、11 月 4 日(月)、令和 7 年 2 月 2 日(日)
開催場所	デイサービスワカバ胡録台、根本倶楽部、岩瀬自治会集会所、稔台市民センター、明市民センター
開催内容	・地区内の各ブロックを巡回し、子ども、保護者、高齢者向けの遊びや出し物を通じた多世代交流 ・明第一地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	明第一地区在住者および在勤・在学者
参加者人数	参加延人数 405 人 平均参加者数 81 人
運営者人数	毎回概ね 20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS 投稿／その他(口コミ、各実行委員の活動での告知)
実績報告額	336,649 円

(7)小金原地区

実績報告額 479,287 円 交付額 480,000 円 返納額 0 円

小金原地区ステーション開催概要

ステーション名	小金原地区「まつど DE つながるステーション」
目的	ステーション活動を通じて地域への愛着を持ってもらう。
開催日	令和 6 年 4 月 27 日(土)、5 月 25 日(土)、6 月 22 日(土)、7 月 27 日(土)、8 月 24 日(土)、9 月 28 日(土)、10 月 26 日(土)、11 月 23 日(土)、12 月 28 日(土)、令和 7 年 1 月 25 日(土)、2 月 22 日(土)、3 月 22 日(土)
開催場所	小金原 7 丁目西町会会館
開催内容	・世代を問わずに集える場を通じて多世代間交流を図る ・小金原地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	小金原地区在住者および在勤・在学者
参加者人数	参加延人数 439 人 平均参加者数 37 人
運営者人数	毎回概ね 5 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS 投稿／その他(口コミ、各実行委員の活動での告知)
実績報告額	479,287 円

(8)馬橋西地区

実績報告額 480,404 円 交付額 480,000 円 返納額 0 円

馬橋西地区ステーション開催概要

ステーション名	みんなでワイワイ
目的	ステーション活動を通じて、多世代間交流の機会を創出する。
開催日	令和 6 年 5 月 11 日(土)、6 月 23 日(日)、8 月 25 日(日)、10 月 20 日(日)、12 月 1 日(日)、令和 7 年 2 月 15 日(土)
開催場所	馬橋小学校、松戸馬橋高等学校、馬橋市民センター、馬橋中央町会会館
開催内容	・ユニバーサルスポーツの体験等を通じた多世代間交流 ・ステーション活動の周知 ・馬橋西地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	馬橋西地区在住者および在勤・在学者
参加者人数	参加延人数 425 人 平均参加者数 70.8 人
運営者人数	毎回概ね 20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS 投稿／その他(口コミ、各実行委員の活動での告知)

実績報告額	480,404 円
-------	-----------

(9)矢切地区

実績報告額 321,094 円 交付額 480,000 円 返納額 158,906 円

矢切地区ステーション開催概要

ステーション名	矢切地区「まつど DE つながるステーション」
目的	ステーション活動を通じて、多世代間交流の機会を創出する。
開催日	令和 6 年 6 月 8 日(土)、7 月 31 日(水)、9 月 7 日(土)、11 月 10 日(日)、12 月 15 日(土)、令和 7 年 2 月 15 日(土)
開催場所	まつど市民活動サポートセンター
開催内容	・ワークショップや茶話会等を通じての多世代間交流 ・矢切地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	矢切地区在住者および在勤・在学者
参加者人数	参加延人数 1,011 人 平均参加者数 168 人
運営者人数	毎回概ね 20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他(口コミ、各実行委員の活動での告知)
実績報告額	321,094 円

(10)常盤平地区

実績報告額 280,087 円 交付額 480,000 円 返納額 199,913 円

常盤平地区ステーション開催概要

ステーション名	まつどDEつながるステーション in ときわ平
目的	地域の子どもから高齢者までの多世代交流のきっかけづくりを進めていく。
開催日	令和 6 年 6 月 8 日(土)、7 月 13 日(土)、10 月 12 日(土)、12 月 7 日(土)、令和 7 年 2 月 22 日(土)、3 月 8 日(土)
開催場所	千駄堀湧水広場、常盤平市民センターホール、牧の原団地 1 街区集会所、日暮町内会館、金ヶ作自治会館
開催内容	・地区内の既存活動を周知・体験 ・喫茶コーナー ・健康、相談コーナー ・常盤平地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	常盤平地区在住者および在勤・在学者
参加者人数	参加延人数 537 人 平均参加者数 89.5 人
運営者人数	毎回概ね 20 人程度

広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各実行委員の活動での告知）
実績報告額	280,087 円

(11)新松戸地区

実績報告額 479,822 円 交付額 480,000 円 返納額 0 円

新松戸地区ステーション開催概要

ステーション名	新松戸地区「まつど DE つながるステーション」
目的	・ステーション活動を通じて多世代交流の機会を生み出すことにより、地区内で顔見知りを増やすきっかけとする。 ・新松戸地区の特色を活かしたプログラムを実践することにより、地区へのシビックプライド等を醸成するきっかけとする。
開催日	令和 6 年 5 月 25 日（土）、7 月 27 日（土）、9 月 21 日（土）、11 月 16 日（土）、令和 7 年 1 月 25 日（土）、2 月 22 日（土）
開催場所	新松戸市民センター
開催内容	・古本等による市（いち） ・さまざまな遊びを通じた多世代間交流 ・カフェスペース ・新松戸地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	新松戸地区在住者および在勤・在学者
参加者人数	参加延人数 907 人 平均参加者数 151.1 人
運営者人数	毎回概ね 10 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各実行委員の活動での告知）
実績報告額	479,822 円

(12)五香松飛台地区

実績報告額 479,695 円 交付額 480,000 円 返納額 0 円

五香松飛台地区ステーション開催概要

ステーション名	五香松飛台地区「まつど DE つながるステーション」
目的	ステーション活動を通じて、多世代が交流し地域への愛着・誇りを持てもらう。
開催日	令和 6 年 6 月 1 日（土）、7 月 20 日（土）、8 月 25 日（日）、10 月 5 日（日）、12 月 21 日（土）、令和 7 年 2 月 24 日（月）
開催場所	五香公会堂、泉ヶ丘自治会館、もとやま会館、松飛台市民センター、五香市民センター
開催内容	・世代を問わずに集える場を提供

	・多世代間の交流を図るイベント実施 ・五香松飛台地区および市内に各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	五香松飛台地区在住者および在勤・在学者
参加者人数	参加延人数 357 人 平均参加者数 59.5 人
運営者人数	毎回概ね 10 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各実行委員の活動での告知）
実績報告額	479,695 円

(13)常盤平団地地区

実績報告額 199,442 円 交付額 320,000 円 返納額 120,558 円

常盤平団地地区ステーション開催概要

ステーション名	団地のなかま
目的	ステーション活動を通じ、地域において、多世代が交流する機会を増やす。
開催日	令和 6 年 8 月 3 日（土）、12 月 8 日（日）、12 月 22 日（日）、令和 7 年 2 月 1 日（土）
開催場所	常盤平中央商店会店舗及び望のひろば、常盤平団地中央集会所、常盤平市民センターホール
開催内容	・世代を問わずに集える場を提供 ・多世代間の交流を図るイベント実施 ・常盤平団地地区および市内の各種情報提供 ・アンケートの実施
主な対象者	地域の高齢者や子ども等
参加者人数	参加延人数 366 人 平均参加者数 91.5 人
運営者人数	毎回概ね 20 人程度
広報手段	チラシ配布／ポスター掲示／SNS投稿／その他（口コミ、各実行委員の活動での告知）
実績報告額	199,442 円

各委員よりいただいたご質問の概要

【質問 1】

五香松飛台地区の支出で備品購入費 58,613 円とあったが何を買ったのか。

【回答 1】

ボッチャボールと居場所交流会にて他地区の活動内容を参考とし、ポップコーン機を購入した。令和 7 年度より使用する予定である

【質問 2】

消耗品費をきっちり使っている地区とそうでない地区がある。有効な使い方があれば聞き

たい。

【回答 2】

各地区残金の差が見受けられるが地区によって実施内容や活動を始めた時期も異なる。例えば備品のイニシャルコストであったり、プレゼントの購入、ユニフォームや独自の旗など仲間意識を強めるような物品を作っている地区もあるため差が出てきているようである。

プレゼントについては、六実六高台地区の青いタオルが代表的な例である。

各委員よりいただいた感想・ご意見の概要

- ・備品購入費が大きな支出になっており、何を購入したかできる範囲で記載をお願いしたい。
- ・残金について有効に使えることがあるなら、情報提供してもらいたい。

■令和 7 年度「まつど DE つながるステーション」の活動について

松戸市地域共生課より説明。異議なしとして承認された。

各委員よりいただいたご質問の概要

【質問 1】

小金原地区ではプログラム設定等を行わず、過ごし方を参加者が選ぶとなっているが、年間を通してそうであるのか。

【回答 1】

毎月、場所、曜日、時間を同じくし開催しており、やっていることもほぼ同じである。しかし、借りている町会会館では季節の飾り付けをしており、それに合わせたプレゼントを準備したり、個人で持ち寄った出し物が行われたりしている。基本は参加者が好きに過ごせるようになっている。

備品について、子どもも大人も一緒に楽しめるようなおもちゃなどを少し多めに購入し、交流のきっかけになるような雰囲気作り、場所作りをしている。

【質問 2】

小金原地区の謝礼金の支出の割合が大きいがなぜか。

【回答 2】

謝礼金は常駐して備品などを貸出してくれている方、掃除や管理を担っている方、毎回来てもらいゲーム等の指導してくれている方に謝礼として払っているものである。

【質問 3】

多世代交流ということで、例えば夏休みなど子どもの学校がお休みの時期を意識して考えている地区はあるか。

【回答 3】

ほとんどの地区が土日に開催しているが、矢切地区では 7 月下旬の平日に開催し、驚くほど多くの参加者があった。各実行委員会では気候を考えながらいろいろな方が来られるよう

工夫し、開催を検討している。

【質問 4】

小金原地区が居場所の開催内容を決めないやり方で“食でつながるフェスタ in 千葉”で認められたといった話があったが、詳しく聞きたい。

【回答 4】

“食でつながるフェスタ in 千葉”が千葉大学で開催され、居場所づくり、つながりづくり、地域づくり等に視点を置いた事例発表に招待され、実行委員が発表した。

【質問 5】

ステーション活動で何を見てこの事業の成果とするのか。どういったことに焦点を当てて私たちが関わればよいか確認ができるとよいと思うがどうか。

【回答 5】

現状は機会の創出として 15 地区に広げていくこと、各地区で年 6 回の開催を目標にしており、地域づくりという面から地域の実行委員会に関わってくれている方々のつながりも作っていきたいと思っている。

居場所を作っていく、孤立を予防するという当初の目的であり、なかなか地域の方と関われない方々をいつもの地域の人たちがいつもの場所で待っていてくれる心の休まる居場所づくりを地域の方々と目指していきたい。

各委員よりいただいた感想・ご意見の概要

- ・実行委員会では、地域共生課の職員の力を借りながらステーションを立ち上げ開催し、携われてよかったと思っている。町会や子ども会などに携わっている人たちが参加しており、リピーターも増えている。孤独でなかなか外に出られない、町会等に携わっていない人たちをいかに居場所づくりに参加してもらうか今後の検討事項であると思っている。今後も地域共生課や市社協の皆さんと活動していきたい。
 - ・前回の全体会議において、引きこもりの人たちを共生社会の中へ引き出す方法を地域のみんなで考えているが難しい中、参加してくれるようになったとの事例がいくつかでてよかったという話とどうしたら担い手不足をみんなで考えられるかという話があったと思う。これについてはアンケートを集計しており、結果がでたら情報提供をしてもらいたい。
- 共生社会の中でいろいろな理由で出てきづらい人たち一人一人の個性に合わせたものは困難であるが、1 つでも 2 つでも実現できればよいというのがみんなの意見であるように思う。

6 その他

■令和 7 年度「まつど DE つながるステーション」パネル展実施報告について

松戸市地域共生課より説明。

各委員よりいただいた感想・ご意見の概要

- ・ステーションの運用構成が既存組織と同じようになっている。ステーションの当初の目的は地域の方々に参加してもらい、地域のために活動することであり、福祉関係ではなかったはずである。今後、既存活動をやってきた組織との関りはどのようにしていくのか、事務局で

考えてもらいたい。地区社協も目的は同じはずであり、地域のいろいろな団体、いろいろな人が関わる組織作りを考える方がよいのではないか。

関わりとしては情報交換をしたり、担当を決めたりといった方が有効ではないか。あるいは共同事業にして、もっと大きな規模で開催するといったことでもいいのではないか。全体的な会議を持てるようにしたらどうか。

- 地区社協のサロン活動の当初の目的は家から出てこない人を出てくるようにすることであり、他にも同じようなことをやっている。組織構成、運営構成が既存の団体だけになっているので、市民のためという考え方をすると少し物足りないような状況ではないだろうか。
- 町会でいろいろな事業やイベントを開催しており、地区社協でも活動している老人会や子供会、地域ボランティアがあるが地域でなかなかつながりが取れない。そういった中で実行委員会はステーションを開催するにあたり、つながりが取れると同時に地元の町会、いろいろな団体とのつながりもとれるようになり、非常にいい傾向だと思っている。地元のまだつながっていない団体も加わり、地域を盛り上げていくようなイベントを開催できれば、さらに広がってたくさんの方に参加してもらえるようになってくるかと思い期待している。

馬橋地区では実行委員をメインに勉強会を開催するという新たな活動を始める。この活動がいろいろな方向に影響していくこと期待をしている。

今後の予定

令和7年度第2回松戸市居場所づくり全体会議の開催

日時: 令和7年7月11日(金) 午後1時30分～